



甲斐ロータリークラブ

会長: 深澤由美子 幹事: 清水豊子 会計: 中澤謙一郎

第229号

2003年 6月16日

第229回

例会日 毎週月曜日19:00～20:00 例会場 甲府富士屋ホテル TEL.055-253-8111
事務局 〒400-0856 甲府市相生2-2-17 甲府商工会議所内 TEL 237-5475 FAX 231-1841

第228回 例会プログラム

新米山奨学生紹介

当クラブの新しい米山奨学生、柳 碩奎(ユ・ソンギョ)さんに来て頂きました。柳さんは現在、山梨大学大学院工学研究科で勉学に励んでいらっしゃる事等、カウンセラーを引き受けて頂いた竹内パスト会長から紹介がありました。

「米山奨学会に応募した理由」と「大学院での研究予定または現在までの研究状況」についてご本人から話があり、大変志の高い青年であるという印象を持たれたのではないのでしょうか。柳さんのお話に関しては、下記をご覧ください。夏さん同様、これから仲良くやってゆきましょう。

会長あいさつ(第228回 6月9日)

皆様こんばんは、今日は当クラブで一年間お世話させていただく事になりました米山奨学生 ユ・ソンギョさんをお迎えしての例会です。

ユさん、一年間どうぞよろしく! 詳しい紹介は今回もカウンセラーを務めて下さいます竹内パスト会長に後ほどして戴きますので皆様お楽しみにしてして下さい。

さて今月はロータリーを理解する月刊です。先週も綱領について述べさせて頂きましたが、何れにしても他の奉仕団体とロータリークラブとの根本的な違いは、職業奉仕をうたっているところです。創立当初のロータリークラブは、誰も信用できる人のいない、過酷な自由競争の中で、心から打ち解けあって、何でも相談できるような親しい仲間を作ろうという発想から出発したグループです。会員同士の親睦を第一義に考えましたから、それを阻害する要因を除くために、一人一業種の職業分類制度を採用しました。親しくなった余禄として、お互いの事業を利用して、それを発展させようという物質的相互扶助の考えが浮かんできました。会員同士はお互いに原価で商品やサービスを融通することが奨励されて、統計係 statistician という役職を設けて、毎例会で、その成果を報告しました。

このようなことから、ロータリアンで無い人を阻害するという批判が生まれ、ロータリアン同士ばかりで商売をしてはいけないということになりました。

しかし100年前の通信・情報網の出来ていない時代にシカゴとカルフォルニアで取引を行う手段として、お互いがロータリアンであるという信頼は何者にも替え難い保証であった事と思われまます。これらの事から今でもロータリーの第一は親睦を掲げますがここで言います親睦とは親友を作ることではなく、知り合いを作ることによって100年の間に変化してきております。「どこであってモヤ～と言おうよ」と挨拶のできる知人です。

そして職業奉仕とは職業を通して「役立つ」事、「アイ・サーブ」とは自己の職業を通して公正な利潤を得るように働き、自己の生活は慎ましやかにして少しでも余禄を残して他の人に役立つように使いなさいということだと思います。

オーストラリアのブリスベンで6月14日に開催された第94回RI大会に、113ヶ国の3,908のロータリークラブから15,000人を越すロータリアンと家族が集まりました。私たちにとって世界120万のロータリアンが知人となり得るのです。其の席上で多くの発表が為されましたが、私たちが日頃より貢献いたしておりますボリア撲滅のための募金が目標8,000万\$を大きく上回って88,557,000米\$と発表されたそうです。

来年は大阪で世界大会です。今から計画して世界中の知人に会いに行きましょう!

米山奨学生 柳 碩奎(ユ・ソンギョ)さん

《米山奨学会に応募した理由》

私の山梨大学は留学生の勉学に集中できる環境を持たせてくれる事にとても力を入れています。私が来日してから日本人に対して持っているイメージは一向に変わることはありませんでした。韓国での教育で植民地時代の歴史を習う過程での偏見などは成人になっても私の中での考え方は変わる事無く過ごしていました。日本語の中で「親身になってくれる人」という事があります。私は日本人の中で本当に親身になってくれる人を山梨大学の中で出会う事ができました。もちろん日本中にこのような真心を持っている方は大勢いると思われまます、私が持っていた偏見を覆すような経験は衝撃に値す

裏面に続く



次回プログラム

クラブ奉仕委員会総括
クラブ協議会

出席報告

前回の出席者 29名 出席率 85.29%

前回の欠席者 小澤 旭, 三澤 清子,
小林 和子, 高野 真六,
中澤謙一郎

第225回(5/19)修正出席率 82.35%

第226回(5/26)修正出席率 88.24%

他RC出席及びメイクアップ会員名

6/ 3 甲府RC...酒井, 小澤, 今福, 飯室,
白井, 大木, 須長, 原

6/ 3 峡東RC...塩野, 志村, 堀端

6/ 4 竜王RC...永井, 小林

ニコニコBOX

当クラブ

深澤由美子

米山奨学生、ユ・ソングユさん ようこそ！

一年間どうぞ宜しく

清水 豊子

先週の早朝例会、お疲れさまでした。

米山奨学生の柳さん、本日はようこそ。

飯室 元邦

ユ・ソングユさん、一年間よろしく！

ゴルフお疲れさまでした。

小山 利行

柳さん、ようこそ。

大木 勝彦

8クラブゴルフコンペにおきまして、前半4回で何とか昼食時大好きなビールも飲まず、午後に備えたのですが、結果5と来年の選抜が危ぶまれます。

京島 久幸

ちょっと早めに失礼します。

堀端 耕司

暑いですね。

原 俊

今日は遅刻しました！

野口 賢司

暑くなりましたが、元気でがんばりましょう(仕事)。

大橋 正哉

新会員歓迎親睦会、ありがとうございました。

臼井 行夫

暑い一日でした。気をつけて下さい。

5000円 須長 志村 原 大木 高野 深澤

市内8クラブゴルフコンペ、団体3位になりました。

頑張って稼いだ賞金です。

幹事報告

例会変更のお知らせ

竜王RC

1) 日時：6月18日(水) 14日(土)

場所：アピオ

13:30~ 13:50 登録受付

14:00~ 14:30 例会

14:30~ 15:50 式典

16:00~ 17:00 祝賀会

創立20周年記念式典のため

2) 日時：6月25日(水) 午後6:30~

場所：アピオ

最終例会のため夜間例会

峡東RC

日時：6月24日(火) 午後7:00~

場所：農協直売所地下食堂

最終例会のため

甲府西RC

日時：6月26日(木) 午後6:30~

場所：古名屋ホテル

最終夜間例会のため

甲府城北RC

日時：6月24日(火) 午後6:30~

場所：ホテル千石

東八代郡石和町川中島545

TEL.055-262-1059

夜間例会のため

る出来事でした。

さらに私が人生を生きる意味を定めるきっかけとなったのもこのような出会いです。

その人は山梨大学の留学生係りですが、留学生の事であるなら寝る暇も惜しんでいて、日本に対する誤解や間違った行動をとった留学生にはまるで父親のように優しく厳しい接し方で留学生を導いてくれる人がいました。

日本人の中でこのような人がいるとは考えもしなかった私はそこから日本人の友人をつくり今までの韓国と日本の関係など腹を割って話す事もできましたし、日本の文化や生活を学びきっかけを掴むようになりました。財団法人ロータリー米山奨学会を希望した理由としては奨学会のしおりに異文化交流そして日本人社会における外国人問題に深く関心を持っている機関で、そこに私も参加して活動できるような感想を受けました。

今まで知らなかった事を短い期間でありながら学校での勉学以外の部分で吸収できる事と奨学会の会員の方と日本だけではなく、日本人の考え方など広範囲の生きた教育に参加できる印象を受けまして応募させていただきました。

《研究計画書》

現在の社会は目覚しく発展していく中で、社会の問題においてあり得る化石燃料の枯渇、公害、環境問題など社会への解決案を模索する研究を主体として学んでいく学問である。この現代社会は日本のみならず全世界的に直面している大きな環境問題であるが、これに関する解決はまだ準備段階である。

しかし、このような問題を一般市民と学者が一つになって研究し、蓄積されている再活用の知識を共有してこの世に送り出そうとしている動きの持続社会形成である。

このような環境は人類が抱えている一つの財産で、人間は第一次産業革命の以降、地球は豊になって行くのではなく痛んでいくような現実しかなかったのである。

その中、私が望んでいる学問は、外国人である立場から見た『日本の公共広告の問題』と日本と韓国の比較を試みるのである。

第一、日本と韓国の広告を記号論にて再解釈。

第二、広告が与える被害や偏見。

第三、未来に向けての広告のあり方。

今は環境だけではなく、情報社会であるために情報の氾濫を余儀なくされているのである。また情報の伝達に誤解は充分混乱している社会に国家間の誤解はさらに深まる一方である。

日本と韓国の問題も上手な情報伝達が今までなかった事も、すべてが誤解から生じているのである。これから韓国と日本は各自が持っている世界観を "今まで人が自分を避けていたとしても共に歩む" ような観念を持って、持続社会の中で考えられることをしっかり学習しなければならないのである。

人々が生き続けられる限り、誤解よりは痛みを伴う現実を探ってお互いが理解し、納得する形の関係を築くのを基本ベースにおいて研究を続けている。